

第3回「川の自然再生」セミナー開催報告



技術普及部 副参事 土門 晋

1. はじめに

平成17年9月6日に第3回「川の自然再生」に関するセミナーを開催したのでここに報告する。

第1回セミナーは平成15年に開催され、北大の中村太士先生による基調講演「川の自然再生の考え方—その適用と今後—」が行われた。第2回は釧路川、円山川、松浦川などの自然再生事業の紹介を中心にセミナーを開催した。

これまでの2回は事業の話題を中心としていたが、今年からはセミナーにテーマを設け、テーマの中で各事業の実例を示す構成とした。テーマは「川の自然再生における合意形成手法と目標設定のあり方」である。

2. 開催プログラム

台風14号の影響で武雄河川事務所の尾澤卓思氏の講演がキャンセルとなり開催プログラムは次のようになった。



セミナー会場の様子

- 基調講演1 川の自然再生における合意形成手法
東京工業大学教授 桑子 敏雄
- 基調講演2 川の自然再生にかかる目標設定のあり方
名古屋大学教授 辻本 哲郎
- 講演1 釧路川(釧路湿原)の自然再生に係る事例
北海道教育大学副学長(釧路校担当) 神田 房行
- 講演2 源兵衛川 水辺環境再生へのプロセス
NPO法人グランドワーク三島事務局長渡辺 豊博
- 講演3 安室川自然再生事業に係る事例
兵庫県立人と自然の博物館主任研究員佐藤 裕司
- 講演4 荒川ネットワークに係る事例
江戸川大学教授 (NPO法人荒川流域ネットワーク代表)
恵 小百合
- 講演5 河川整備計画への市民参加と合意形成
株式会社吉村伸一流域計画室代表取締役
吉村 伸一

3. 講演要旨

基調講演1では「履歴を持つ空間の表情である」景観について重要性を指摘するとともに、住民参加は「失われた川との関わりを掘り起こす」ことや「環境喪失のリスクをどう負担するか」を議論するために必要であると指摘した。

基調講演2では、河川生態系の総体を再生しなければならないが現在の国土の使い方では総体の再生は難しい点を指摘し、機能回復を一つのターゲットとする考え方の提案があった。

次に講演1から講演5では実例をもとに講演が行われた。詳細は述べないが、講演1では釧路湿原の事例をもとに「釧路湿原自然再生全体構想 自然再生の原則」等の解説、講演2では三島市の源兵衛川を題材にグランドワークの実践的な活動の紹介、講演3では兵庫県の安室川におけるチスジノリの生育環境を重視した目標設定の設定例、講演4では荒川のネットワークを題材に流域経営や循環型社会について広く解説、講演5では土岐川庄内川市民意見交換会で作成した情報マップとその活用及び市民の関わりなどである。



講演の様子

4. まとめ

講演の事例となった各々の事例では、手間と時間をかけて川と人の関わりを再生する作業が行われていることが想像される。土木事業はその効果を社会に説明するため、早急な結果を求められがちである。

しかし、自然再生事業は「失われた川と人とのかわり」を取り戻しながらすすめられていくものであり、手間や時間のかかる「目標の設定」と「合意形成」への議論が必要であることを再認識した。

謝辞：本セミナーの開催にあたり、ご講演いただきました講師の方々とご参加いただいた皆様へこの場を借りてお礼申し上げます。